



第45号
2013年3月
NPO法人麦の会

題字 明石澄子

〒983-0834 仙台市宮城野区松岡町17-1 TEL (FAX 兼) 022-299-1279

E-mail muginokai@k5.dion.ne.jp http://www.muginokai-koppe.com

目次	NPO法人共同連全国研修会のお知らせ	…1p
	被災から2年	飯嶋 茂 …2p
	コッペのみなさんありがとう	甲山 三友紀 …4p
	わくわく音楽会	斎藤 七恵 …5p
		氏家 大介 …7p
		阿部 央希 …8p
	毎日が綱渡りパート②	後藤 ゆかり …9p
	新聞記事より	…15p
	あとがき他	…16p

NPO法人共同連全国研修会のお知らせ

NPO法人共同連の全国研修会を宮城で行います。以下の日程で行います。

4月20日の南三陸町への見学は人数制限があります。参加を希望される方はお早めにご連絡ください。

4月21日の映画上映会は、地震・原発事故に直面した障害者の記録です。日曜の午前の上映会となりますが、是非ご参加ください。

開催日 2013年4月20日(土)～21日(日)

テーマ 東日本大震災から2年～被災地の現状は～

4月20日(土)

12:00 仙台駅集合 12:30 仙台駅出発

15:00~16:00 南三陸着 被災箇所見学

16:00~16:30 復興商店街でお買い物

16:30~18:00 のぞみ福祉作業所見学とお話し

被災地センター南三陸(奏海の杜)のスタッフのお話し

18:00 南三陸出発 20:00 仙台着

*移動は、貸切バスで 50人定員

*バスでの移動を希望される方は、2000円が必要

4月21日(日)

9時30分~12時30分

映画「逃げ遅れる人々~東日本大震災と障害者」上映を中心に

監督 飯田 基晴

製作 東北関東大震災障害者救援本部

場所 エルパーク仙台セミナーホール

141ビル(仙台三越定禅寺通り館)5階

仙台市青葉区一番町4丁目11番1号 TEL.022-268-8300

(9時より一番町側入口より入ることができます)

上映協力費 500円

タイムスケジュール

9:30 共同連代表挨拶 被災地センターみやぎ代表挨拶

9:40 共同連の紹介

10:00~11:14 映画上映

~12:30 上映を受けて、意見交換 1時間ぐらい

12:30 閉会のあいさつ

詳しくはお問い合わせください。

問合せ先 NPO 法人麦の会

仙台市宮城野区松岡町17-1 コッペ内

Tel & fax 022-299-1279

E-mail muginokai@k5.dion.ne.jp

被災から2年

飯嶋 茂

2月初め南三陸町を訪ねた。津波の被害が激しかった地区は、2年近くたった今でも「何もない」状態だ。被災直後に沿岸被災地に行った時のドキドキ

する感じを思い出し、胸を打つ。

もちろん復興は進んでいないわけではない。

南三陸にあるのぞみ福祉作業所は津波で施設は全壊した。現在は仮設の作業所で活動している。新しい作業として紙漉きに取り組んだり、土地を提供して頂いた方の畑で作業をしたりしている。通っているメンバーの顔にも明るさを感じた。不自由な面も当然あるが、施設の再建に向けて前を向こうとしている。

県南にある山元町の工房地球村では、昨年11月にトレーラーハウスを利用したコミュニティカフェをオープンさせた。いろんな団体の支援を受けて作られ、こじんまりとしているがおしゃれな空間に仕上がっている。地球村は主に精神障害の方が対象となっている。施設長の田口さんに2年近くになっての精神当事者の抱えている問題を聞いてみた。「地球村に通って来ている人は大体大丈夫だけど、仮設住宅で以前の住居より狭い空間で生活してたりとか、家族の仕事の内容も変わったりとか、生活環境がかわってしまったことで状態に不安定さが増してしまっている人はいるかな」とのお答だった。山元町では最初の災害公営住宅の入居の申し込みが始まったばかり。安心して住める住居の確保はこれからだ。

仮設住宅でひとつ付け加えると、「音」も聞こえやすいことが問題として上がっている。一般の人でも気になるわけだが、どうしても大きな声を出してしまったりする人は、なおさら隣近所が気になってしまう。仮設住宅の標準仕様をどうするのかは、大きく取り上げられるバリアフリーの問題も含め、今後の課題と思う。

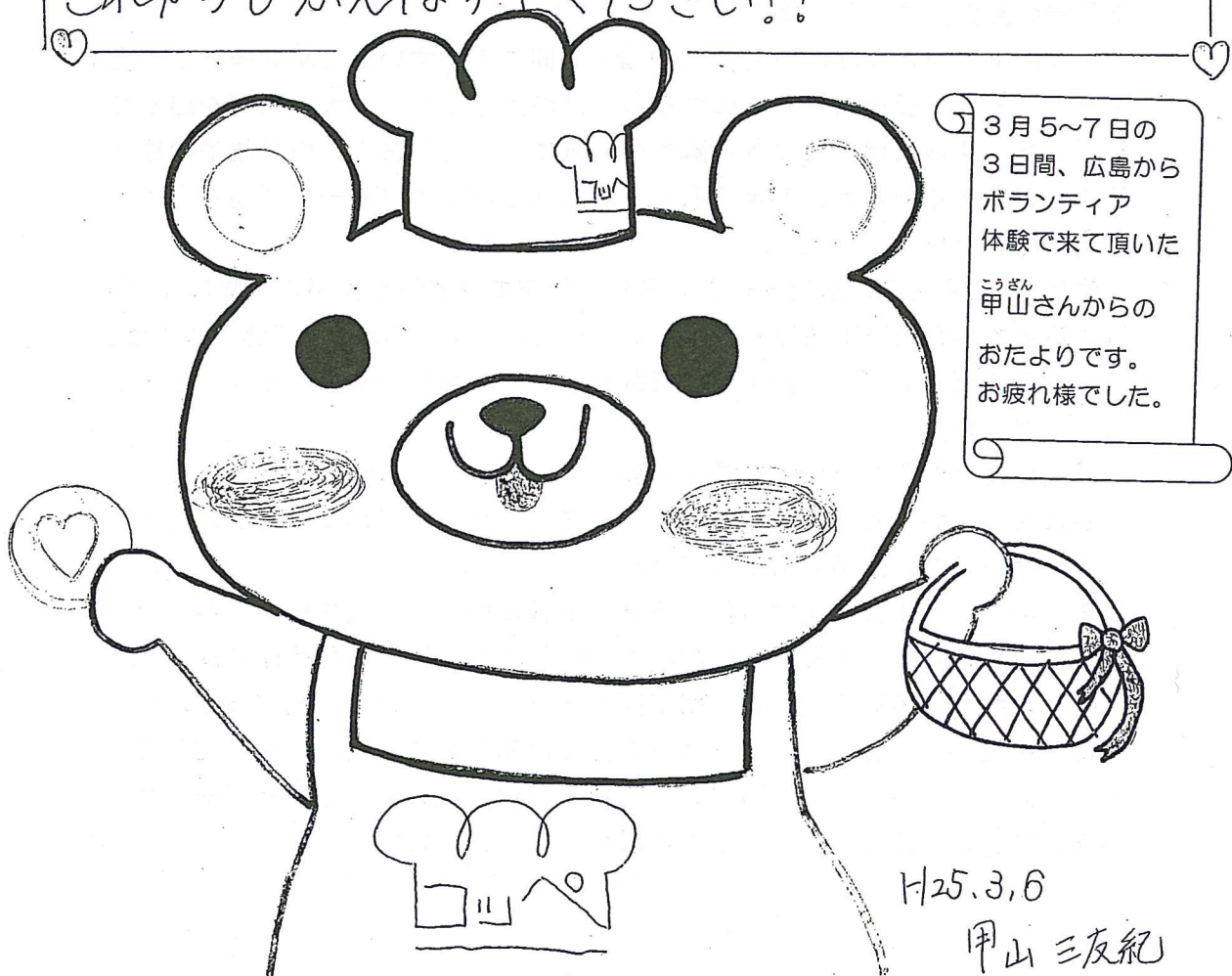
昨年の12月7日に震度5弱を記録した地震で津波注意報が出た際には、避難する車で再び道路が渋滞したことが大きく取り上げられた。石巻の知人は、みんな全く反省してないのよ、と憤慨していた。車での避難をどうするかも大きな問題だ。

震災の痛手から立ち直ったことも多くなり、新たな活動を地元の人たちが中心になって始める動きもある。一方、まだまだ支援が必要な場面、解決しなければいけない課題も山積している。

そんな中、去年は支援する側の障害当事者の中でも体調を崩す人が少なからずいた。安定した支援をどう続けていけるのか、私たちが試行錯誤だ。

4月の共同連の研修会では、南三陸町へ行く予定でいる。是非皆さんの目で現地を確かめてほしい。南三陸町では仮設商店街での買い物も予定している。私は「たこプリン」というなにやら怪しげな名前の商品を買って帰った。中身はプリンではなかったことだけは報告しておきます。

コッペのみなさん、3日間ありがとうございました！
3日間というとても短い時間でしたが、とても楽しい時を
過ごさせて頂きました。1日目はとても緊張していて
ドキドキだったけど、みなさんがあたたかく受け入れ
てくれて本当に嬉しかったです♡ 私が失敗して
しまった時も優しくフォローしてくれてここで働けて
良かったと思えました！ありがとうございました。
これからもがんばってください！！





わくわく音楽祭



間というまに2月……

いよいよ、待ちにまった、わくわく音楽祭
に行く日です。



もちろん、バラライカさんの素敵
な演奏が一番楽しみなんですが
…今回特別ゲストでコッペが
出るステージ発表がありました。
出た人は、かまちちゃんと犬ちゃんと
阿部君と…ソレイユの石橋さん
です。

やったのは、ゴールデンボンバー
って言う歌に合わせて、
おどってました。

みんなダンスが素敵でした。
かつらもなかななかお似合い
でしたよ。🌸🍡🍡🍡🍡🌸🎀
お昼休みに練習したかいが
あったね🍡バッチリだったよ。
最高によかったよ🍡🍡ゲームだよ

来年は私も出たいなあ🍡🍡

リラックマ大スキな🐼
齋藤七恵で〜す。エハハ🍡🍡🍡



バラライカがひらいた。おう

氏家 大介 福祉 フォーザ

ゴールテンボンバー

を大介がまたあつていしし

しくん4人でかりました。

ほつはおけしよおしました。

長い時間かけてました。

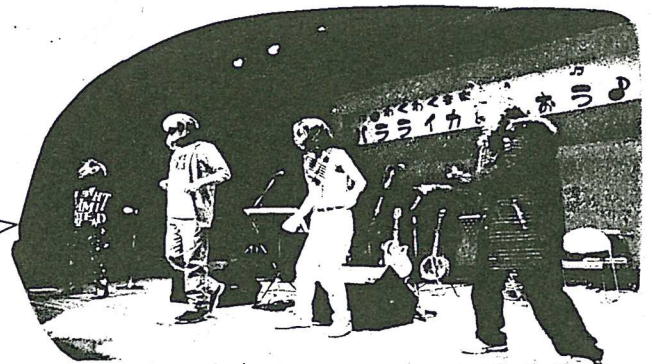
めいもました。4人でおどり

おどりは大成エカしました。

おけしよをおきました。

ひりひりしました。

ゴールテンボンバーを踊る、
石橋、氏家、鎌田、阿部（央）の4人



わくわく音楽

コッペは「初めてのステージです。」

男達は「ブルーデイズボンバー」という

テーマでステージに出ました。

うまくできるようになりました。すばらしい

気持ちや心や愛する幸せいっはいいです。

さわやか わくわく音楽は最高

来年はもっと明るく未来のわくわく音楽

会があると信じます。大越君、司会を

やらせて下さい。心から愛をこめてやります。

夢はステージに上りたい

阿部 央希

眠れない夜がある。友人に長いメールを打ち読み返して消す時がある。いつも悩みに押しつぶされそうになった時、一晩寝てから考える。しかし眠れない夜がある。人間なんだからしょうがない。腎臓移植のため私と妹は仙台社会保険病院に入院した。一週間後の手術に向かい、検査三昧の生活が始まる。妹も私もそして家族も準備万端。覚悟は出来ていた。しかし一筋縄には行かないものだ。

入院二日目、寝たきりになっていた義理の母が亡くなったのだ。

入院前、家族で会いに行った。母はすやすやねむっている。「お母さん肌すべすべだね。どこの化粧品使ってるの？」と、頬を撫でながら話しかけた。母が笑ったように感じた。

一年前義理の父が病気で亡くなった。母は葬儀の時、車椅子の上で遠足に来た子供のようにニコニコしていた。夫の死も理解出来ない。愛する人にかこまれ幸せそうだった。

母はやんちゃな父を前によく「じいちゃんより早く死ねない。」と笑っていた。父も「先にあの世に行って、座布団敷いてお茶入れて待ってるからね。」と、必ず答えた。私は二人が大好きだった。

すぐにでも駆けつけたい。しかし、手術に向かい数々の検査が始まっていた。お寺は寒い。手術前に体調を崩すわけにはいかない。顔だけでも見たいと、義理の兄と電話で話す。兄が言った。「前と同じ顔してるから大丈夫。安心して手術に専念しろ。手術、頑張れよ。」末っ子の嫁はいつもみんなに可愛がられていた。私は一晩子供のように泣いた。そして腹を据えた。妹と二人、必ず元気になろう。

葬儀の日、病院から家族に手術の説明があった。長男長女は受付や弔辞を任せられ張り切っている。次女に代表して来てもらう。次女は心配症。直接先生から話しを聞いた方が良いと考えた。4人の姪も交え年頃の娘達が先生を困む、ハーレム状態の回診室。事細かに手術の説明をうける。私は輪切りのCT画像を見て改めて驚いた。私と妹の腎臓はまるでカボチャとレンコンの断面図のように違う。皮下脂肪の違いは自覚していたが、これほどとは…

娘は葬儀に急いで戻っていった。その後色々事件が勃発するのだが…それは後々話そう。

妹と私は毎日レントゲン、CTなど沢山の検査を受けた。入院患者のほとんどが、透析患者。みんな私達より厳しい条件での手術。大変な道のりを家族と共に頑張っている。沢山の修羅場を乗り越え傷だらけでここにいる。私は先生方が、魔法使いに見えた。出会えた事が嬉しい。

妹は透析前に移植に踏み切った。リスクもあるが、その選択は正しかったと後々感じる事となる。手術の前日、妹と麻酔科の先生から説明を受けた。毎回長い説明や大きな機械の検査の度、いちいち書類にサインをする。私は頭が悪い。問診中、先生が「下の歯で、上の歯を挟んで下さい。」と言った。とっさに出来ない。アゴを前に出しながら考えると、目が上を見る。アゴと一緒に下唇が突き出した。超ミラクルなアイーンの完成だ。先生が「もう良いですよ」と優しく言った。隣で妹が爆笑している。

妹は母ゆずりの勝ち気な性格。具合が悪くても、何も言わず頑張ってきた。そんな妹が、前回の手術が終わった時「また手術するの嫌だな…」と、弱音を吐いた。その気持ちを私は術後痛い程理解した。

手術の日はまるで、私の好きな海外ドラマのようだった。

頭の悪い私も手術の流れはつかめた。最初に打つ筋肉注射が痛い事も知っている。
ストレッチャーに載せられ足早に手術室に運ばれる。海外ドラマ好きの看護師さんに「ERみたいだね。」と言ったら、「これからもっとそれらしくなりますよ。」と言われた。テンションが上がる。しかしイメージと違った点の一つ。ストレッチャーから、手術台にうつる時自分で移動した事だ。体をナマズのようにくねらせ、手術台にうつる。

酸素マスクを付け眩しいライトの中「点滴に麻酔を入れますよ。」と声が聞こえた。と同時に眠りにつく。私は普段から寝つきが良い。子供達におやすみ3秒で寝ていると聞いている。

手術中不思議な夢を見た。真っ白な空間にベージュ色の砂絵がいろんな方向から現れ、包みこむように消えて行く。先生方が手術をしている声がある。

内容はわからないが良い雰囲気だ。しかし会話が途切れる度、恐怖が溢れ出す。どこか戻れない所に引っ張られて行く感覚。

ドラマでありがちな展開。恐怖に打ちのめされ、泣きそうになった瞬間、懐かしい飲み屋に来ていた。父と母と3人でコタツで番茶を飲んでいる。カウンターを見ると、震災前にガンで亡くなった、飲み屋のオヤジがいる。最近亡くなった劇団員と、楽しげに酒を呑んでいる。今はもうない懐かしい飲み屋。

オヤジは毎回日本酒を持って芝居を観に来てくれた。仙台の芝居は殆ど観ている。芝居が終わると、オヤジの酒を店に持ち込んでみんなで打ちあげをした。オヤジは容赦なくダメ出しをする。みんないつも少しでも誉められたくてがんばっていた。

親父の葬式は盛大な酒盛りのようだった。葬祭会館に溢れた仲間がみんな言っている。「次オヤジの店に行く時、怒られないよう生きよう。次会うのが楽しみだ。」

今オヤジに会ったら怒られる…と焦って母を見たら、母は笑っていた。その時先生に名前を呼ばれ、あつという間に現実に戻って来た。暖かい夢。長くも短くも感じた夢だった。

手術台の上の私は、沢山の機械につながれ、喉に酸素のチューブが入っていた。点滴だらけ。足にはエコノミー症候群を防ぐ機械がぐるりと巻かれ収縮を繰り返している。息が苦しく溺れたような感覚。意識が確認出来ないと、喉のチューブを抜く事が出来ない。アイーンはアゴのちょうつがいの検査だったんだ…とボンヤリ思った。私は喉が弱い。チューブを抜くのは大変気持ちが悪いものだった。実際はさほど太くないのだが、丸太を抜いたように感じた。どんな口だ？

酸素マスクをしたまま、ストレッチャーに載せられ回復室にもどる。手術台からストレッチャーに移動した事も、回復室で体重を天秤ばかりのような機械で計った事も記憶に無い。都合の悪い事は忘れる体質だ。

行きは良い良い、帰りは怖い。回復室にうつされてからの記憶はどこまで現実か正直わからない。幻覚をみて色々ヤバい寝言を言ったりすると噂で聞いていた。私は天井の化粧版の穴が、板の中を和紙をすくように泳ぐのが見えた。天井いっぱいのもつろろすけそっくり。楽しげだ。

手術に付き添っていた兄と姪が私の顔を見に来た。労をねぎらいお礼を言っている。二人が魚眼レンズのように見える。「痛くないから大丈夫だよ」と、酸素マスクを軽く外しながら答えた。しばらくしてから子供達がやって来た。一気に安心感が溢れて来る。露天風呂に浸かっているみたいに気持ちが良い。前回妹の腎臓摘出手術の時。意識もうろうとしている妹を見舞った長女が「白眼むいてるけど、元気そう。安心した。」と言った。私は長女にウケを狙って「白眼もむける位元気だよ」と白目にして言いたいのが上手くしゃべれない。何度も言ってはウケない。次女が携帯で写真を

撮った。ピースしている私がいる。条件反射はすごい。子供達から妹の手術が順調に続いている事を聞く。妹はどんな夢を見ているのだろう。家族に妹は何度も手術を受けて偉い。私は二度と嫌だ、と話す。あの恐怖はハンパなかった。覚悟は出来ていた。先生方も信頼している。でも心の奥で怖かったのだ。愛する家族を残して死ぬわけにはいかないと感じた。

姪が子供を抱いて会いに来る。妹の孫は私達の宝物だ。「頑張ってるね」と可愛い笑顔ではにかんでいる。滅茶苦茶癒やされる。パワーが間欠泉のように吹き出してくる。どんな薬より効き目がある。姪から妹の手術が無事終わった事を聞く。一気に何かが軽くなっていくのがわかった。

手術は無事予定通り私は4時間、妹は8時間で終わった。有り難い事だ。傷口も9センチ。後々縮み6センチになった。内視鏡の穴も小さく1ヶ所だけ。驚く程痛まない。私は傷口の回りに拳位の皮下出血の痕が何カ所か出来た。私は内出血しやすい体質。手術でアザが出来るのは珍しい事例と言われた。脂タププリのお肉をかき分け固定して出来たアザ。デブは一つも良い事が無い…日に日にアザは薄くなっていく。しかし、退院後色々トラブルの原因になっていく。ま、その話しも後ほど。

回復室で過ごした夜は人生で一番長かった。嬉しい事に痛みは無い。だがなぜか汗が止まらず喉がカラカラに乾く。腎臓が一つになり体が驚いている。眠るように努力したが、首の点滴が気になり寝返りが出来ない。点滴のチューブに空気が溜まるとブザーが突然鳴る。心電図の音も不快。後日幻聴だと知るのだが、急患が担ぎ込まれる気配がずっとしていた。海外ドラマの見過ぎだ。痛み止めが良く効いている。副産物的な幻聴や幻覚は仕方ないか…

術後すぐ、先生方が何度もやってきては痛みが無いか聞かれた。来る度少しずつ管や機械が外されていく。口にしていた酸素マスクも鼻にするタイプに代わった。先生が今度は神様に見えた。浅い眠りにつくたび、体がだんだん楽になっていく。夜が明ける頃やっと熟睡。昼前に目が覚めた。空中浮遊した感覚は天井のまっくらくろすけと共になくなった。酸素マスクと首の点滴が外され、腕の点滴一つになった。普段めったに走らない私だが、駆け出したい衝動にかられる。早速屋食がでたが、食欲は無い。しかしお腹は雷なみに鳴っている。一口食べてみた。かなり美味しい。お粥は胃袋にしみこみ練り梅の酸味は味覚を呼び起こした。我ながら凄い回復力に驚かされる。

午後、オシッコの管が抜かれた。トイレに歩いて行く。オシッコが勢い良く出た。えらいぞ私の腎臓。ヤバイ感動して泣きそう。トイレの帰り、看護士さんに付き添われ、妹に会いに行く。無菌室が遠く感じる。妹はベットで、私より多い点滴と機械に繋がれていた。

「調子どう？」と、話しかけた。妹は笑って言った。「姉ちゃんの腎臓でかすぎ。漬け物石みたいに重い。ここにあるのわかるよ。」「私は無くなった感覚無い。」「あつたら怖いね…」「なんか不思議だね。」私は子供を手放したような感情が湧いた。

妹に私の左の腎臓を移植した。妹の右の小さな腎臓の隣りに鎮座している。腎臓は一つになっても前と同じレベルで働く。今まで使われていない所が覚醒すると聞いた。腎臓と肺、卵巣と〇丸。一つがダメージを受けても耐えられる仕組み。神秘的で合理的だ

私たちはもうスペアは無い。一つになった腎臓を大切に、生きていこうと改めて心に誓った。

今回、移植手術に踏み切った時、私は沢山の問題を抱えていた。子供達の事もそう。

お葬式で長女は父親に久しぶりに会った。震災後ケンカしてずっと会っていなかった。長女の境

界線人格障害が悪化した要因の一つでもあった。回りの配慮と、本人達の努力で和解。きつと亡くなった母が取り持ってくれたのだろう。しかし、次女はかなり大変だった。入院中、予想通り色々な事件が発生した。

疲れもあり、姉妹で外食した時の事。長女がワインを一本注文した。色々面白くない事が、重なったらしい。長男は楽しみにしていた映画を観に行き、不在だった。マンションに帰ってから、姉妹は大喧嘩になる。酒が入ると歯止めが効かない。障子がさんごとぶち抜かれ穴があいた。興奮を抑えるため薬を大量に飲んでしまう。勿論死なないよう処方されている。が点滴は必要だ。前は更に体を傷付けていたが、それは無くなった。かなりの進歩だと思う。いつもなら、私が担いで病院に連れて行くが、入院中。いつもの病院は夜はやっていない。薬が効き突然眠くなり歩けなくなったりする。車では行けない。興奮状態でタクシーを呼ぶとトラブルになりかねない。近所迷惑だが、救急車を呼んだ。

長男は映画を観て帰って来たら、救急車に乗りこむ妹達に遭遇。目を離した隙に色々起きる事を悟った。

医療センターで点滴を受け、タクシーで深夜に帰って来た。自分で故意に薬を飲んだ場合、保険はきかない。この時期痛い出費だ。随分高いワインになった。一番ダメージを受けたのは次女だった。入院中、兄弟そろって頑張っていたが、長男は葬儀で休んだ分残業が続いた。

次女はだんだん鬱状態に。仕事に行けなくなっていく。親子で仕事を休んでいる。迷惑をかけて申し訳ないと焦る気持ちは益々症状を悪化させていった。私の心配は現実になっていく。何も出来ない自分が歯がゆい。コッペの皆さんに申し訳ない。

しかし、反対に長女は大きな山を何度も越え、少しずつ安定していった。

母親の手術という荒治療は長女には効いたが次女には毒になっていった。

長女には、優しい彼がいる。入院中も何度もお見舞いに来てくれた。娘を色々助けてくれている。彼の家族全員が娘の病気を良く理解してくれ、協力してくれる。お母さんは私と体系は間逆だが、私達と波長がピッタリ合う。長女を実の娘のように可愛がってくれる。今回も急な葬儀で困っている娘に冠婚葬祭の本を出してきて教えてくれたりする。有り難い事だ。感謝の気持ちはどんなに言葉を並べても伝えきれない。

娘が病気と戦えるのは、沢山の人に見放されていないからだと思う。

私は無事8日目に予定通り退院。術後毎日リハビリも兼ねて体を動かしていた。メキメキ元気になって行く。姉妹揃って驚異的な回復力だと、先生方に誉められた。

しかし、毎度の事だが、私はやはりアクシデントに見まわれる。今回も例外ではない。

実家の母は脳腫瘍の手術を受けてから、歩くのが難しくなった。最近ボケもひどい。ご飯を食べさせに通っている姪から、退院初日、突然電話がかかって来た。「婆ちゃん家に居ないけど、ゆかりちゃんと一緒？」方々探したが見つからない。姪は保育園のお迎え時間が迫っている。私はたまたま休みだった息子を連れ、途中もう一人の姪も拾い車で実家にむかった。入院中の妹が検索コースをメールで指示。とりあえず、姪を連絡係に実家へ送る。素晴らしいチームワークだ。

張り切る私達をよそに実家に着いたら母が玄関で座りこんでいた。クタクタに疲れていたがケガ

は無い。ホツとした。話しを聞くと、バスに乗り妹に会いに行くつもりだったが帰って来たらしい。昔、近くのバス停から病院までバスが出ていた。しかし地下鉄が出来て路線が変わった。母はそれがわからない。地下鉄の駅で乗り換えが出来ず、諦めて帰ろうと乗ったバスが間違っていた。かなりの距離を母は歩いて帰って来た。タクシーはつかまらなかったらしい。母はからくり人形のように100メートルを1時間かけて歩く。ケガが無くて本当に良かった。

「自分で病院に行きたかった。」そう言いながらベッドで眠る母。「トトロのメイみたいだね。」と、みんなで話す。母はその日を境に、徘徊しなくなった。

次の日、母を妹の病院に連れて行った。母は妹にめちやくちゃ叱られた。妹に会え、メイは叱られながらニコニコしている。ボケる事は良い事もある。私は動き回りすぎたからか、傷口の下がアワビみたいに腫れ、腹筋にはりついた。お見舞いのついでに先生に診てもらおう。皮下出血が体液に混じり溜まっていた。急遽細い針の注射器で血を抜いてもらおう。普通は自然に体が吸収するが、太っている人は吸収率が悪いらしい。先生にアワビが大きくなったらすぐ来るよう言われた。次の日また小さいアワビが出来ていた。連休なので休み明けに病院に行こう。しかしそれは正しい判断ではなかった。

翌朝目がさめたら、アワビは手のひらサイズまで成長していた。超高級アワビだ。痛みは無い。とりあえず、お風呂に入ってから考えよう。入院中はまめに入浴していたが退院後まともに入れずにいた。頭を洗う。久しぶりのお風呂は気持ち良い。天国のようだ。シャワーで泡を流していたら真っ白な泡に混じり赤いリボンが真っ直ぐ排水溝に伸びている。血か？天国から地獄に急降下。お風呂はヤバかった。

慌ててシャワーで傷口を流す。防水テープが外れてワイン色した血が針の痕から溢れている。触ってみたら水芸のように噴き出した。先生が、鮮血だったらマズいが、濃いワイン色した血の時は古い血だから安心して良いと言っていた。

ばい菌に感染したらマズい。応急処置をする。寝ていた次女を急いで起こし、病院に送ってもらった。次女は血まみれの私にショックを受けている。先生は針穴を爪楊枝のような器具で広げ、アワビを絞った。

しばらく、ガーゼを取り替えながら、体液が自然に出なくなるのを待つ。一週間おきに通院。1ヶ月で傷口が塞がり完治した。体液が溜まった事例は今まで無かったと先生に言われた。重い物は持たず、あまり腹筋を酷使しないよう注意された。痛く無いが見た目は痛々しい。みんな心配している。さっさと病院に行けば良かったと悔やまれる。

妹にも嚴重注意のメールをもらおう。私の病院嫌いを知っている。20年前、癌で亡くなった父の介護以来病院に行くのを避けて来た。だが、今回克服したと思う。白衣を見ても吐き気はおきない。日に日に体力が戻って来た。体力と共に体重も元に戻った。体調を見ながら少しずつ仕事を始めた。娘がまだコッペを休んでいる。自暴自棄になっている。私もみんなに迷惑を掛けたくなかった。娘に心配をかけて、悪循環だが、経済的にも働かないわけにはいかない。体はしんどいが行くしかない。

午後から仕事に行き夕方家に帰ったある日。家の中がめちやくちゃになっていた。食器が壊れ、冷凍にしていたおにぎりが転がっている。娘達は派手にケンカをした。長女しかいない。長女は一人暮らしをしているが、術後、私を心配して家事をしに家へ来ていた。壊れた食器を片付けながら、長女から話しを聞く。お互いに言いたい事を言いたいただけ言ったとわかった。それでも、私に言えない悩みを抱えている。二人が私を気遣っているのがわかる。

私は飛び出した次女を探しに車を走らせた。そう遠くには行ってないだろう。だが、なかなか見つからない。その頃娘はコッペに相談に行っていた。飯島さん達に泣きながら話を聞いてもらう。悩みは根深く問題がてんこ盛りだ。沢山話した娘はすっきりした顔で、帰って来た。娘にとって飯島さん達の話しは、精神科の先生より具体的でわかりやすい。薬を飲むより効き目がある。重ね重ねありがたい事だ。話し合いの結果体調が戻るまで、休職する事になった。

鬱状態はその日を境に少しずつ良くなって行く。今は通信教育の進級を目標に勉強に専念。学校のスクーリングに通い始めた。今まで週末だけ通っていたが、限界を感じ悩んでいたらしい。心も体も休めなかった。働きながら一人で勉強するのは大変な事だと思う。進級試験は無事乗り越えられた。今だにトイレに色々なプリントが張ってある。私達はトイレでくつろげなくなった。

今回、正直娘たちが数々の試練を乗り越えられるか不安だった。沢山の人の力が大きいと感じる。有り難い事だと思う。コッペの皆さんに多大な心配と迷惑をかけてしまった。これから徐々に返して行こうと思う。長女も沢山の人の協力のおかげで、すっかり症状が安定した。まだまだ油断は出来ないが、山は越えたように思う。

私より遅く退院した妹はびっくりする程元気になった。色黒だった妹が会う度美白になっていく。目の下にクマが出来ている。「これで、無理した時わかるようになったね。」と、二人で笑った。最近クマもなくなった。

私は年明けコッペに完全復帰した。まだ疲れやすいが、元気に働いている。

今回入院して感じた事がある。沢山の先生に見守られている感覚が幸せだった。看護師さんもカウンセラーもいる。些細な不安も取り除いてくれる。妹と二人、守られてる感覚。安心感。どこかしら懐かしい。きっと子供達はこの感覚を感じられなかったから病気になったのだろう。しかし、心地よいがなぜか落ち着かない。綱渡りの生き方が染み付いている。修正しなくては。と感じた。

私は、腎臓を一つ失った。しかし、貴重な経験をもらった。その事を嬉しく思う。今回移植の事、娘の病気の事、赤裸々に書かせてもらった。反響があり、同じ病気で苦しんでいる人が沢山いる事を知った。みなさん、傷だらけだ。当事者じゃないと分からない問題が沢山ある。言いたい事を代わりに言ってくれてありがとう。と言われた。読んでくれてありがとうと言いたい。

私は友人に何かある度「これも勉強」と言っていた。友人は「勉強しすぎ！」と笑ってくれる。私には一緒に泣いたり、笑ったり出来る友人がいる。家族がいる。仲間がいる。だから生きていけるのだと思う。

病気で苦しむ皆さんにもより良い道が拓かれる事を心から願っている。

地域との連携 カギ

福祉避難所どう運営

焦点



福祉避難所に指定された特別養護老人ホームきたかみ。災害時に要援護者を支援する人手の確保が課題だ＝石巻市北上町

東日本大震災では、高齢者や障害者にとって命綱となるはずの福祉避難所が開設できなかったり、そもそも事前に定められていなかったりする問題が表面化した。福祉

避難所をどう機能させるか。障害者団体や福祉施設は震災を教訓に新たな模索を始めている。

人的な支援を期待

「事務所に戻るか、体難所だった同市若林小の育館にとどまるべきか」。体育館に避難した。だが東日本大震災の発生当 6時間後、約2時離れた夜、電動車いす生活を送る自立支援団体事務所に戻る仙台市若林区の及川智さん(34)は、ぎりぎりの判断を迫られた。

午後4時には、指定避難スペースもなかった」と避難所として指定している。体育館には車いす用トイレがなく、横になる者のため、52施設を福祉

仙台市は一般の避難所での生活が困難な要援護者のため、52施設を福祉

「もつと柔軟に対応してほしい」。及川さんは震災後、市民団体「被災地障がい者センターみやぎ」を設立し、市に申し入れを行った。指定避難所のバリアフリー化の推進とともに、要援護者が福祉避難所に直接避難できるような弾力的な運用も認めるよう求めた。

た。しかし人手不足などで開設できたのは半数。設置された福祉避難所も受け入れは3月12日以降だった。福祉避難所はあくまで2次避難所の位置付け。指定避難所で申し込み、許可された人が利用できる。

1面に関連記事

「接避難」に慎重姿勢を崩していない。福祉避難所開設の障害ともなった人手不足への有効な対策もまだ見えない。

震災前は福祉避難所の指定がなかった石巻市。

1月25日に同市と福祉避難所の協力協定を結んだ特別養護老人ホームきたかみ(石巻市北上町)が、災害発生直後の受け入れ対応で期待するのが地域の支援だ。

「日ごろから地域密着を掲げ、地元祭りのホーム内でのイベントで地域住民と交流を深めている。近くに建設を予定している3階建ての特養ホーム屋上には、津波避難場所を用意し災害時には地域住民にも開放する。

阿部善治施設長は「大規模災害時の最大の懸念は、大勢の要援護者に対応する人手の確保。行政

の人的支援が期待できない場合、頼れるのは地域しかない。鍵は地域連携にある」と話す。

東日本大震災

麦の会として参加している活動について

☆被災地障がい者センターみやぎ

被災地障がい者センターみやぎは、「東北関東大震災障害者救援本部」及び「NPO法人 ゆめ・風基金」の全面的なバックアップを受け、地元の障害団体が集まり被災障がい者の支援を行ってきました。現在は南三陸町・石巻の支援に活動の力点を置いています。仙台市に対しては、この間の活動でうきぼりになった問題点をまとめ要望書として提出しました。今後2か月に1度のペースで話し合を重ねることにしています。

☆みやぎアピール大行動

みやぎアピール大行動実行員会は、2007年より、障害者自立支援法の廃止と新たな制度の確立を求め活動してきました。

毎年行ってきたアピール集会・行進には、私たち抜きに私たちのことを決めるなをスローガンに、障がい種別の枠を超え毎回300名ほどの人が参加してきました。

全国的に行われた運動の成果で、障害者自立支援法に代わる障害者総合支援法がこの4月より施行されますが、まだまだ障害者当事者が望む制度化改革にはなっていません。

今年もまた10月にアピール集会・行進を行う予定です。

あとがき

☆社団法人 仙台建設業協会様より、5万円のご寄付をいただきました。毎年、寄付を頂いています。ありがとうございます。

☆個人の方からもあたたかい寄付を頂いています。それぞれの方のお名前を紙面上でご紹介できずに申し訳ありません。改めてお礼申し上げます。

☆放射能検査を行っています。月に2品目ほど検査に出しています。検出下限値10ベクレルで、いずれも不検出となっています。